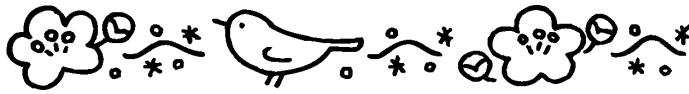


園だより

2月号



令和6年1月31日
新宿区立西戸山幼稚園
園長 佐藤 淳穂

「いいこと思い付いた！」

園長 佐藤 淳穂

今年も暖冬ようですが、先週には氷の張った日がありました。登園したAさんが氷に気付くと、瞬く間に情報が伝わって、たらいの周りは園リュックを背負ったままの子どもたちでいっぱいになりました。冷蔵庫ではなく、いつもの園庭で、いつものバケツやたらいの中に突如として現れた氷におおはしゃぎです。思わず触るとパリーンと割れてしまい、持ち上げるとあまりの冷たさに手を放してしまいます。氷の中にできたたくさんの泡も透き通ったその色も美しく、こんなにもじっくり氷に見とれていることのできる時間に豊かさを感じました。キーンと冷えた朝にしか体験できない、氷との出合いのひとときでした。

暖かい部屋の中では、子どもたちは作品作りを楽しんでいます。特に年長組は集大成としての大掛かりな取り組みの真最中です。子どもたち一人一人の作りたいものが集結している夢のような作品展です。コンビニ、遊園地、お祭り、ふれあい動物園、ゲームセンター…その名も「なないろのにじランド」。「そんなに全部できるの？」と思わず口にした私ですが、子どもたちは恐れ知らずで、それぞれのグループに分かれ、互いに知恵を出し合い、困りごとを乗り越えながら、毎日コツコツと作品を作り続けています。

テーブルに頭を寄せ合っているのはコンビニのグループ。テーブルには段ボール製のドリンクマシーンが乗っています。ペットボトルのふたで作られたボタンを押すと、スズランテープのジュースがラップの芯で作った口から出てくる仕組みで、カラフルなスズランテープの出具合を調整しているところでした。そのマシーンが3台もあるのには驚きました。

お祭りのグループが最初に取り掛かったのは「ケバブ屋さん」でした。最近のお祭りの屋台には多国籍の美味しいものもあるようで、子どもたちの実現したいイメージに担任も一緒になって試行錯誤していました。何日もかけて屋台が出来上がると、次には「金魚すくい」を作ることになっているらしく、赤いビニールを小さく切り始めました。「まずは金魚を作ろうよ」「何で作る？」段取りの設定にも材料集めにも、作品作りには相談が欠かせません。「それ、いいね」「Cちゃんありがとう」と互いの頑張りやアイデアを認め合って作業を進めている協同的な姿に成長を感じました。



夢の実現に向けて、こんなにも集中し続けていられるのはなぜだろうと考えると、やはり、昨年度の年長組への「憧れ」があるからだと思います。今年も「なないろのにじランド」がオープンし、小さいクラスやお家の方を招いて、楽しませられる予定です。すみれ組への憧れが西戸山幼稚園の文化となって次の年長組を育てていきます。「あんな風になりたい」が原動力となり、「いいこと思い付いた！」が一人一人の学びを支えていくのです。